

令和元・2年度地区指定研究協力校  
「人権教育」研究公開  
霧島市立高千穂小学校

## 1 研究主題

確かな基礎学力を身に付け、主体的に学び合う子どもの育成  
～「わかる・できる」喜びを感じられる算数科学習指導を目指して～

## 2 研究発表

霧島市立高千穂小学校では、令和元年度から2年間にわたり、地区研究協力校として、「確かな基礎学力を身に付け、主体的に学び合う子どもの育成」を研究主題に、人権教育の視点から算数科学習指導の研究・実践に取り組んできました。

研究発表では、人権教育の視点から授業を見直し、「考えの違いを認め合える学習空間」や「一緒に分かろう、できようとする学習仲間」、「自分で考え、みんなで話し合う学習時間」の学習空間、学習仲間、学習時間を充実させるための様々な工夫が紹介されました。また、その成果として、児童の中に、学級みんなで解決しようとする雰囲気の高まりについての認識の高まりや仲間を大切に思い、学び合う雰囲気の高まりなどが紹介されました。今回は算数科に特化した研究を進めてこられましたが、今後は全教育活動において人権教育の視点から活動を見直し、学校での活動が全児童にとって安心して楽しいものになるよう新たな研究推進に向かう意欲を示されました。

なお、研究仮説及び研究実践内容については以下のとおりです。

### 【仮説1】

- 1 授業の流れを工夫すれば、基礎学力を身に付けた子どもが育つのではないか。
- (1) 学習過程の工夫 (2) 数学的活動の工夫 (3) 対話活動の工夫  
(4) 評価の工夫

### 【仮説2】

- 2 算数科に関する環境を整えたり、学習したことを生活の中で生かせることを実感させたりするならば、基礎学力の定着を図ることにつながるのではないか。
- (1) 教室内の算数コーナー (2) 共通実践事項で学習のしつけの統一  
(3) 校舎内の算数の環境整備 (4) チャレンジタイムの取組  
(5) 授業連動型家庭学習

### 【仮説3】

- 3 一人一人の学びを大切にした授業づくりを工夫すれば、学ぶ喜びを感じ、主体的に学ぼうとする子どもが育つのではないか。
- (1) 人権教育の視点から授業を見直す  
(2) 話し方・聞き方のしつけ (3) 全職員での人権教育研修

### 3 公開授業

霧島市立高千穂小学校では、1年生と6年生の2学年の授業が公開されました。

第1学年では松山 和恵教諭が児童をリズムよく（テンポよく）いきいきと活動させる授業を展開しました。そこには、指導者の児童のやる気を引き出すための発問の工夫や声かけがありました。また、答えが分からずに困っている児童に早く理解できた児童が意欲的に教えている姿もあり、研究の成果を体現したものとなっていました。

第6学年では山口 智子教諭が、日常生活と算数的な考え方を結び付け、児童の興味・関心を高めるために身近な具体物（乳酸菌飲料）を使った体験活動を取り入れた授業を展開しました。自分たちが作った乳酸菌飲料を実際に味わうという体験が児童の考えを揺さぶるよいきっかけになっていました。また、教諭の発問等で児童の“つぶやき”を引き出し、笑顔で学び合う姿が見られました。



【第1学年における授業の様子】



【第6学年における授業の様子】

### 4 分科会

分科会では、授業者が反省を述べた後、質疑応答に引き続き研究協議が行われました。授業者反省では、算数が苦手だった児童が体験活動を導入した授業後に「今日の算数は楽しかった。」という感想があったことの紹介がありました。また協議では主に、様々な個性や課題を抱えた子どもたちが集う教室で、「分かった・できた」の学びを保障する教科指導はどうあればよいかについて議論が交わされました。人権教育の視点に立った教育活動の重要性を再認識するよい機会となりました。



【分科会の様子】

- ・ 分からない児童が素直に「困っている」と発言できるクラスの雰囲気がとてもよかった。児童一人一人に対する声かけや指導・支援の大切さを再確認できた。
- ・ 算数科と人権教育がどのように結びつくのか疑問に思っていたが、様々なところで結びつきがあることが分かり、参考になった。
- ・ 全校体制で協力し、実践してきたことが伝わるすばらしい発表だった。
- ・ 一人一人が「分かった」と思う授業にするためには、学級経営が基盤になることを改めて感じた。